

保険者番号
1 4 1 5 0 7

被保険者番号
0 0 0

0 3

0 0 0 1

ページ番号を『1』
等、数字で記載

対象者の被保険者番号を記載

和暦で記載

認定調査票(概況調査)

調査日 年 月 日

独居 日中独居 同居者も要介護状態 同居 病院・施設等 常時介護者あり 介助者が不在

該当する項目
全てに を
記載
(複数選択)

「概況調査」には家族状況・主介護者は誰か、本人・家族の主訴、介護が必要になった病歴と経過、住居環境、使用している介護機器、今後のサービス利用意向、新規・区分変更申請の理由、虐待の有無等を簡潔に記載
固有名詞や個人が特定されるような情報は記載しない。
(*概況調査は審査判定の際の直接的な根拠としては使用できない。『介護の手間』に関することは、各項目に記載する。)

介護保険以外の在宅サービス(民間の有料サービスを含む)

虐待が疑われる事実を知った場合、また包括や行政の介入がある場合はそれぞれ を記載 包括や行政以外の介入や、他に対応していることがあれば記載

虐待の可能性: あり 包括や行政への相談あり(相談先・対応方法:

認定調査票(特記事項) *選択に迷った項目:文頭に ・不適切と判断する項目:文頭に を記載

(-)
(-)
(-)
(-)
(-)
(-)

必ず、特記事項の書き出しに入れる

カッコ内に該当の項目番号(1-2,3-4等)を記載

1行に複数の項目の記載をする場合は、同じ群の項目とする。次の群の内容を記入する場合は、必ず改行して記載

(1-6~9)寝たきりのため、全てできない。(1-10・11)全介助で・・・

(1-13)普通の大きさの声で聞こえる。

(2-1)抱き上げて・・・

群が変わっているため、次の行へ記載

(2-5・6) 独居のため、自分で排泄をしているが、~のような状況で不適切と判断。~が適切な介助であり、

(-) 「一部介助」を選択する。

選択に迷った項目は書き出しに を記載し、選択した根拠を記載

「実際の介助の方法」が不適切な場合は、該当する項目の特記事項の書き出しに を記載し、不適切と判断する理由と適切な介助方法を記載

(2-11) 選択に迷ったが、~であり、~を選択した。

(4-13)誰もいない時に一人で話している。特に対応はしていない(3/週)

4群を選択した場合は、文末にカッコをつけて頻度を必ず記載
例:毎日,(回/週),(2~3回/月),(入所後 回)等

(6-9)病棟の看護師が毎食経管栄養の処置をしている。

6群の「特別な医療」の項目については、実施頻度・継続性、実施者(医療職かどうか)当該医療行為を必要とする理由等を併記 急性期の場合は特記のみ

各ページの裏面に必ず被保険者の名前を記載

(7-1) J2:となり近所なら一人で外出する。公共交通機関の利用はできない。

(7-2) b:服薬や金銭の管理が必要で、家庭内においても支障を来たす症状・行動や意思疎通の困難さが多少ある。

特記事項は、原則1枚(1枚に書ききれない場合は2枚目に記載)
『文字:明朝体,10ポイント』で記載

裏面に被保険者名を記載すること